

市民団体の次年度活動の準備に役立つ「2つの催し」を特集ご紹介!

第17号

2月2日「福島県 NPO の集い」で資金づくり術を身につけましょう! あわせて、県下2つの NPO の「資金調達事例」も学べます!

2月～3月は、市民団体、地域自治組織、NPOにとり次年度活動のための準備期間。組織を改めたり「事業計画」「収支予算」を作成する時期でもあります。そんな作業に大いに役立つ「2つの催し」をご紹介します。ひとつ目は「福島県 NPO のつどい」2つ目はウラ面で紹介しています「地域づくり講演会」です。

市民活動だって「先立つモノはお金!」でも「お金をくださいっ!」って言えますか?

まずは2月2日(木)福島県主催の「福島県NPOの集い」です。第1部の講演タイトルが「お金をくださいっ!」って言えますか」と刺激的です。どんなさやかな市民活動でも先立つものは「お金」だということは活動メンバーなら誰しも知っています。でも、だからといって、協力者や活動参加者に面と向かって「お金をくださいっ!」とはなかなか言えません。

講師の浅井美絵さん(日本ファンドレイジング協会認定ファンドレイザー)は、この「心のブレーキ」を外すことが市民活動における「資金づくり」の出発点だとおっしゃいます。では「心のブレーキ」はどうやって外すのか、外したあと何をすればいいのか、については当日の浅井さんの講演でお確かめください。

「パンダハウスを育てる会」「つながっぺ南相馬」…2つのNPOの「資金調達事例」も学べます

第2部は、福島県内で活躍する2つのNPO法人の実際の「資金調達事例発表」です。ひとつは「認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会」さんの事例。福島県立医科大学に近い福島市蓬莱町に居室3室を備えた「パンダハウス」を1997年にオープン以来、小児がんなど難病と闘っているお子さんとそのご家族を支援する「病院近くの我が家」を運営していますが、昨年このパンダハウスを倍ほどの大きさに増改築。その「資金をどう調達したのか」詳しく伺います。

もうひとつは「特定非営利活動法人つながっぺ南相馬」さんの事例。法人の理事長自身も津波の被災者だったのですが、震災と原発事故の被災者支援に向けてNPOを設立、南相馬市小高区で「癒しのサロン」を運営してきました。今でも過酷な状況が続く中、その活動資金をどう調達してきたのか伺います。



「福島県NPOのつどい」
2月2日(木) 13:15～16:00
福島市市民会館 第2ホール
参加無料
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741

「福島県NPOのつどい」案内チラシ

主催・福島県、運営受託・認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター、事務局・ふくしま地域活動団体サポートセンターの体制で開催されます。

・第1部講師の浅井美絵さんは、同志社大学神学部を卒業後、国際交流NGOピースポート、国際人権NGOヒューマンライツ・ナウを経て、2015年よりフリーランスファンドレイザーとして活躍をはじめ現在に至っています。ファンドレイザーとは「資金を調達する人」という意味です。



特定非営利活動法人つながっぺ南相馬
パンダハウス
「癒しのサロン」で新たな絆・心と笑顔の健康

↑「パンダハウス」の建築資金寄付を呼び掛けたパンフレット(左)と「つながっぺ南相馬」の活動を伝えるホームページ(右)

会場は「福島市市民会館・第2ホール」 参加希望の際は「支援センター」にお電話を!

第3部は「つどい参加者の交流会」。分野を超えた交流ネットワークを実現するチャンスです。

以上の「福島県NPOの集い」への参加は無料ですが、事前に参加を申し出て「申込書」「団体紹介カード」等を提出する必要があります。「支援センター」にお電話くだされば、これらの手続きを引き受けますので、参加希望の個人・団体はお気軽に、024-583-2800までお電話ください。会場の「福島市市民会館」への道順詳細も説明いたします。

いま地域全世帯加入で注目を集めるNPO「きらりよしじま」の、「組織編成」「事業展開」「人材育成」が伊達市で学べます!

2月16日(木)伊達中央交流館で法人の事務局長・高橋由和氏がすべてを話します

今、全国の市民活動関係者の注目を集めているNPO法人が、山形県川西町の「特定非営利活動法人きらりよしじまネットワーク」。2月16日はその事務局長・高橋由和氏が、「きらりよしじま」の「組織編成」「事業展開」「人材育成」のすべてを、自ら語ってくれます。

この講演会を企画したのは伊達市の「NPO法人りょうぜん里山がっこう」。案内チラシの「若い世代が担う仕組みづくり」のタイトルには、高橋氏に「きらりよしじま 10年間の歩み」を語ってもらう中から、何とか「若い世代による地域づくりのヒントを得たい」という主催者の思いが感じられます。

さらにこの催しには、共催に国見町、伊達市と桑折町が後援にそれぞれ名を連ねており、文字通り、市民団体と行政による「協働事業」としての「地域づくり講演会」となっています。

全世帯加入NPOが「地域経営」を担う姿は、市民による地域活動の未来を示す「先駆け」!?

「きらりよしじま」が注目されるのは第1に「地域全世帯」加入のNPOであることです。課題を共有するメンバーで組織されるNPOが多い中、この点がまず異色です。しかも取組んでいる課題が実に多岐にわたっています。「ゆりかごから墓場まで」は英国の社会福祉のスローガンでしたが、これに負けず「子育て支援から高齢者ケア、自主防災から環境保護、農業6次化から産直・ネット販売、さらに教育支援」と川西町吉島地区のさまざまな地域課題に取り組んでいます。

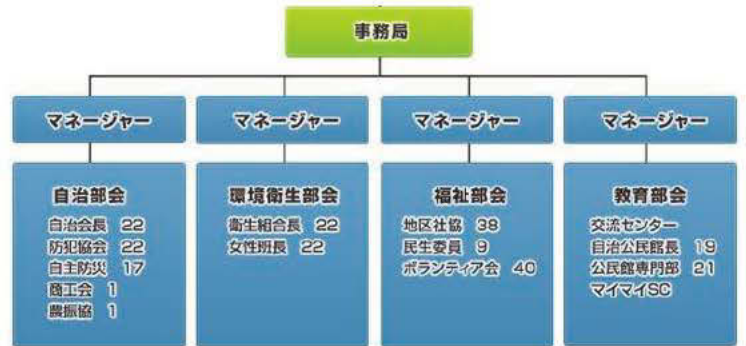
実働部隊は「自治」「環境衛生」「福祉」「教育」の4部会。これを束ねる「事務局」は約30名。事業展開は、ワークショップを重ねるボトムアップ方式。参加者には若い世代が多数見られるとのこと。ここまで来るのに10年という時間がかかっているとのことですが、これから地域課題に取り組む市民団体には「先駆け」として、学ぶところがたくさんありそうです。



←「地域づくり講演会」案内チラシ

- ・主な講演予定内容
- ①地区を法人で経営する理由と可能性②多様な財源を確保する事業展開と企業連携③住民アイデアを事業化する人材育成④住民合意のワークショップ

・講師 高橋由和氏プロフィール
2007年、地区課題を事業経営で解決する、全世帯加入のNPO法人を設立、事務局長就任。
住民が地域経営できるための、技術の習得ならびに役割・出番をコーディネート。全国で講演活動展開中。



↑「きらりよしじま」の実働部隊である「4つの部会」と「事務局」。数字は会員数。「マネージャー」は経験を積んだ事務局員があたる。図はホームページより。

会場は「伊達中央交流館」「参加無料」ですが先着100名なので「支援センター」にお電話を!

「公益財団法人東北活性化センター」発行の「地域コミュニティ経営ガイド」は「きらりよしじま」の「設立と運営」について詳細を特集した上で、「人材育成システム」こそ一番の特徴だと指摘しています。これを含めそのすべてが学べる今回の催し、会場がご近所「伊達中央交流館」ですから、市民活動関係者にはとくにご参加をおすすめします。申込先着100名ですから、早めに024-583-2800までお電話ください。会場への道順詳細も説明いたします。

65歳以上の方を雇用している市民団体に朗報! 保険料負担なしで雇用保険適用!

ご存じでしたか、この1月1日から、地域自治組織や市民団体で「65歳以上の方」を雇用している場合、「雇用主ならびに本人の保険料免除(平成31年度まで)」の上で「雇用保険」の適用対象となりました。これまで雇用保険の対象になっていなかった「65歳以上の方」にも(当面保険料の負担なしで)「雇用保険」が適用されることになったのです。届け出をするだけですから該当者のいる団体には対応をおすすめします。詳しくは下記へ問い合わせてください。

伊達市市民活動支援センター

電話番号: 024-583-2800 FAX: 024-583-2820

○開館: 毎週・火～日曜(月曜休館)

午前9時～午後6時

伊達ふれあいセンター3階まで

